



# BE POSITIVE



共創から始める、  
古河の未来提言

YEG

古河商工会議所青年部



# 目 次

1. ご挨拶
2. 古河 YEG 政策提言委員会の主な活動記録
3. 政策提言趣旨及び背景
4. 政策提言内容
  - (1) 地域人材を活かし、地域が先生になるまちへ～講師リストの制定について～
  - (2) くらしやすく魅力のあるまちへ～古河駅前の動線改善と駅前施設活用について～
  - (3) 自然と暮らしがつながるまちへ～古河駅西口から渡良瀬川土手の中長期構想について～
5. まとめ
6. あとがき



# ご挨拶



古河商工会議所青年部  
第43代会長

野澤 俊勝

我々古河 YEG は、古河市内で事業を営む 47 歳以下の青年経済人の集まる団体です。  
古河商工会議所の一翼を担う組織として、昭和 58 年の創立以来、故郷である古河市の経済的發展を支えるとともに、若手経営者・後継者の相互研鑽と会員相互の交流を通じて、企業の発展と豊かな地域経済社会を築くために、強い使命感と情熱を持って様々な活動を行ってまいりました。

令和 7 年度は影響力のある団体としての役割を果たしていく必要があると考え、「One of them 共創のチカラ」のスローガンを掲げました。楽しい活動やおもしろい活動を通じて、関係人口を増やし、新たなコミュニティを生み出すことで、共に地域を創り上げていく。そんな新たな価値の創造に向けた共創的な環境を構築する為に、「選ばれ、頼られる古河 YEG」としての信頼と存在感を高める活動を実践しております。

その中で、我々古河 YEG でも政策提言活動を重要な活動の一つとして位置づけ、今年度より取り組みをはじめました。

政策提言活動というのは要望ではなく、古河の課題や魅力を抽出し、行政や関係団体、教育機関、市民とともに共有し、一つの方向へ向かって歩みを始める為の指針であると考えます。この活動が産官学民の連携を生み出し、より良い古河の未来に向かう第一歩となることを私は強く確信しております。

結びに、本提言書の作成にあたり、ご支援、ご協力を頂きました皆様、そして何より古河 YEG 初めての政策提言に向けて活動をして頂いた政策提言委員会の皆に心より感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



## 古河 YEG 政策提言委員会の主な活動記録

令和7年度	5月26日(月)	<p><b>古河 YEG 5月事業「講演とグループディスカッション」</b> ／於：古河商工会議所</p> <p><b>テーマ</b> ゼロからはじめる政策提言～酒田 YEG から政策提言を学ぶ～</p> <p><b>講師</b> 酒田 YEG 直前会長、山形県連監事 酒田・時を奏でる宿 若葉旅館 代表取締役社長 矢野 慶汰 氏</p> <p><b>内容</b> 政策提言に積極的に取り組んでいる酒田 YEG の講師矢野氏より、政策提言とはなにかを学び、知見を深めるグループディスカッションを行った。</p>
	6月20日(金) ～6月21日(土)	<p><b>古河 YEG 6月例会「視察研修」</b>／於：山形県酒田市</p> <p><b>テーマ</b> 現地交流！酒田 × 古河～酒田 Activate のリアルを解き明かせ！～</p> <p><b>内容</b> 酒田市現地に赴き、酒田 YEG 及び市役所等関係者とのパネルディスカッション、交流、酒田市の観光導線を踏まえた視察を行った。</p>
	9月22日(月)	<p><b>古河 YEG 9月例会「他団体を交えたグループディスカッション」</b> ／於：サンワックスホールスペース U</p> <p><b>テーマ</b> 共創から始める、古河の未来提言</p> <p><b>内容</b> 古河市をはじめ、11 団体を交え、古河 YEG 政策提言委員会で検討している政策提言の背景、骨子の説明を行い、グループディスカッションを行った。</p>

### 「本提言書」について

当団体の名称については、本書における表紙、ご挨拶、あとがきの正式名称表記を除き、すべて「古河 YEG(Young Entrepreneurs Group)」の表現を使用しております。

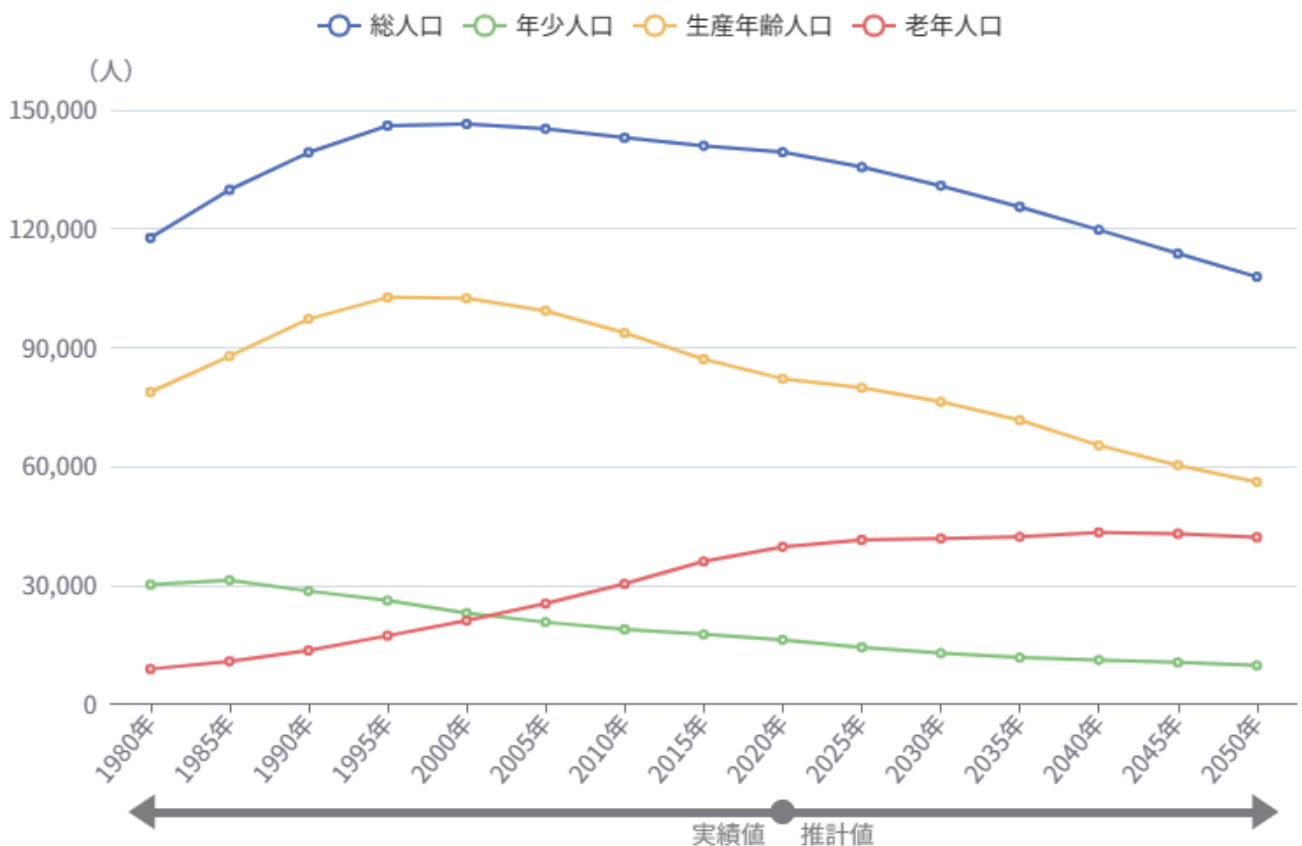
## 政策提言趣旨及び背景

古河市は現在約 14 万人の人口を有しているが、少子高齢化と人口減少の影響を強く受け、2040 年には約 12 万人へ減少すると予測されている。

2040 年には、約 1,800 ある市区町村のうち 896 が消滅可能性都市になると予測されており、今後は地域間での人口の取り合いが益々進むことが想定される（※国土交通政策研究所レポート、平成 26 年野村総研調べ）。

### 人口推移グラフ

茨城県古河市



※RESAS 地域経済分析システムより抜粋

古河市の人口推移グラフ（実績及び推計値）を見ると、特に生産年齢人口の減少が顕著であることが明らかである。労働人口や消費者人口がいなければ、地域は成り立たないことから、地域経済や市民生活の持続可能性に大きな影響を及ぼすことが懸念される。

古河を地域の人々から愛され、市外の人々からも選ばれるまちとしていくことで、人口推移推計値を改善していくことは可能であり、それを実現するためにも、古河 YEG としては、地域の民間事業者と行政が共創し対応を進めていくことが必要不可欠だと考えている。

本提言書は、その第一歩として、教育分野・まちづくり分野の具体的な取組案を示すものである。

提言  
1

## 地域人材を活かし、地域が先生になるまちへ ～講師リストの制定について～

### 提言理由及び内容

古河市の教育現場では、総合的な学習（探求）の時間等を通じて、キャリア教育や地域学習の推進を行っているが、外部講師の人材情報が体系的に整理されておらず、地域との連携に課題点がある。本提言では、地域の経営者・専門家の内、地域の教育に協力できる人材を「講師リスト」として整備し、教育委員会・学校・地域団体が活用できる仕組みを構築することを提言する。

### 実施方法

- YEG メンバー等を中心とした、以下 3 点のうち 1 点以上の対応が可能な講師候補者をリストアップする。
  - ① 職場見学・体験
  - ② 講演・個別プログラムの対応
  - ③ 教師・生徒等からの質問への回答
- 分野別（経営、技術、福祉、文化等）のカテゴライズを実施し、古河 YEG のホームページに掲載を行う。
- 各学校へ講師リストの案内を行い、各学校にて活用する。
- 学校からフィードバック制度を設けることで、質の向上を図る。

### 期待される効果

#### 短期

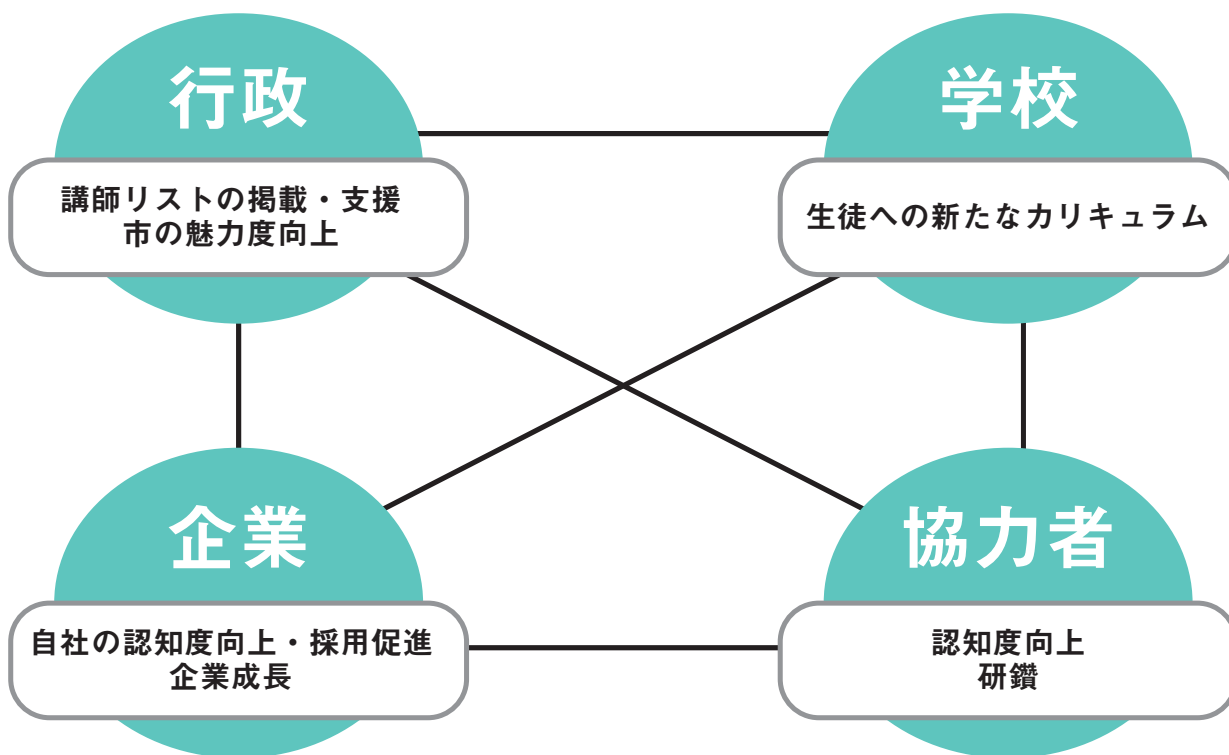
- 学校の教育手法の拡大
- 地域の子どもたちの視野拡大

#### 中長期

- 教育を起点とした移住促進
- 地域企業の成長、インターンシップ等の実施
- I ターン、U ターンの増加

円滑な活用が進むまでに学校、地域ともに試行錯誤はあると考えられるが、持続可能な形式であり、生産年齢人口の増加、地域愛の醸成、子どもたちの生き抜くチカラを育むこと、企業成長等、波及効果は多岐に渡るものとする。





**行政** 教育を軸とした地域連携による市の魅力向上、地域人材育成と人口定着の推進

**学校** 外部人材の活用による教育の多様化、地域に根ざしたキャリア観の育成

**企業** 講師リスト活動を通じた認知度向上・採用力の強化、企業成長

**協力者** 講師リスト活動を通じた認知度向上、研鑽

## 市への依頼事項

- 本講師リストにて対応を行った内容について、市の補助による学校負担の軽減の検討をお願いする。
- 教育を軸とした地域連携による市の魅力向上の情報発信の検討をお願いする（実施内容の発信、講師リストのリンク掲載等）。

上記により講師リストの整備を進めることで、「四方良し」をつくることを目的とする。

提言  
2

# くらしやすく魅力のあるまちへ ～古河駅前の動線改善と駅前施設活用について～

## 提言理由及び内容

古河を地域の人々から愛され、市外の人々からも選ばれるまちにするため、まちづくり分野では古河駅周辺の再生が不可欠と考える。＜古河市都市計画マスタープラン＞でも駅周辺は「都市核」と位置付けられているが、将来に向けた具体的な計画案が公表されているわけではない。

古河駅は市内外からの交通結節点でありながら、駅前の動線設計や空間活用に課題がある。駅前滞留スペースの不足、空きビルの増加、公共的施設の不足、送迎時のロータリー混雑、観光客への動線誘導の不十分さなどが、市民や来訪者の利便性を損なっている。本提言では提言3の中長期的なまちづくりを見据え、主に古河駅西口周辺の再生について提案する。

図：古河駅～渡良瀬川土手までの地図 古河の玄関口としての駅前の重要性

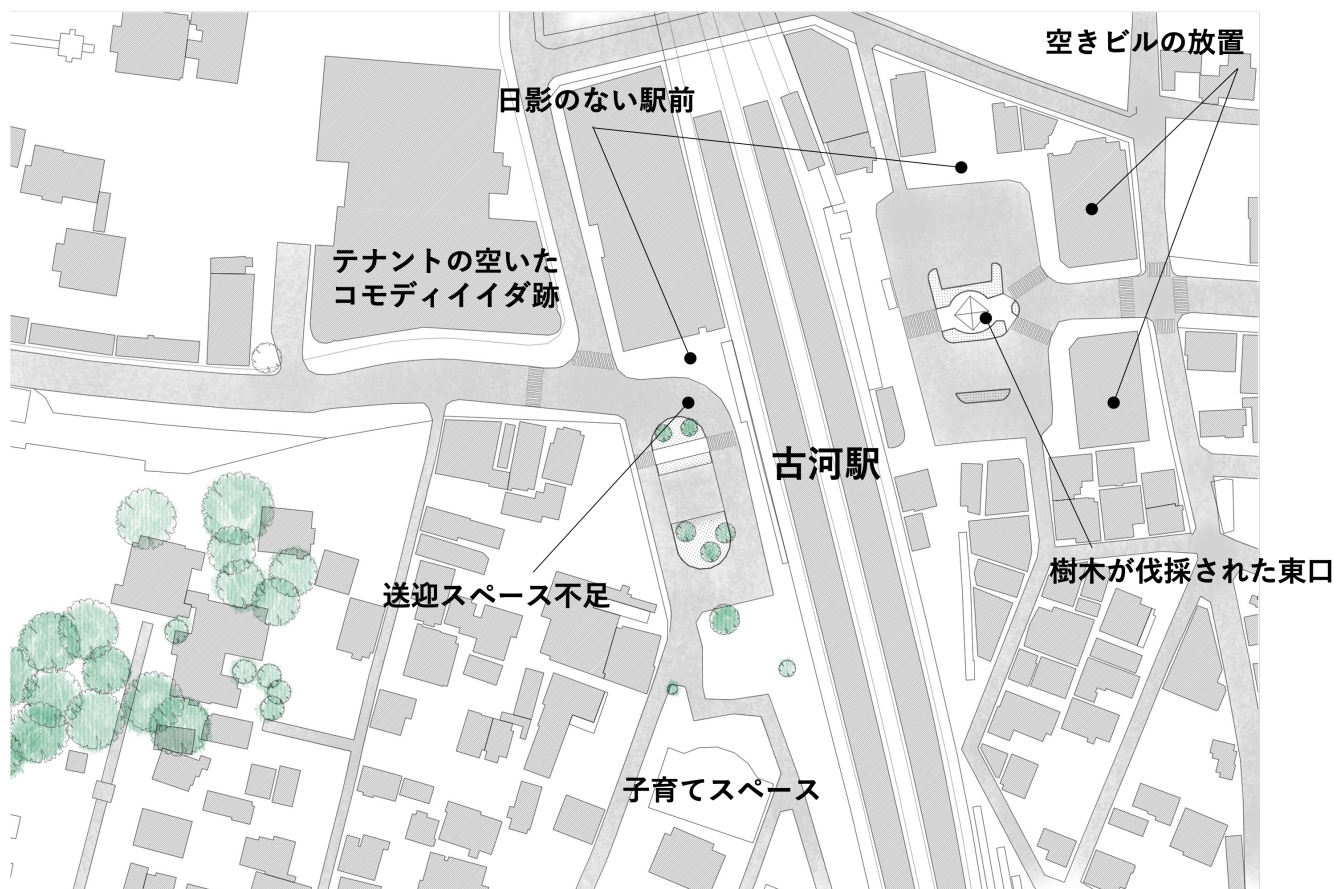


## 実施方法（駅前空間改善の提案例）

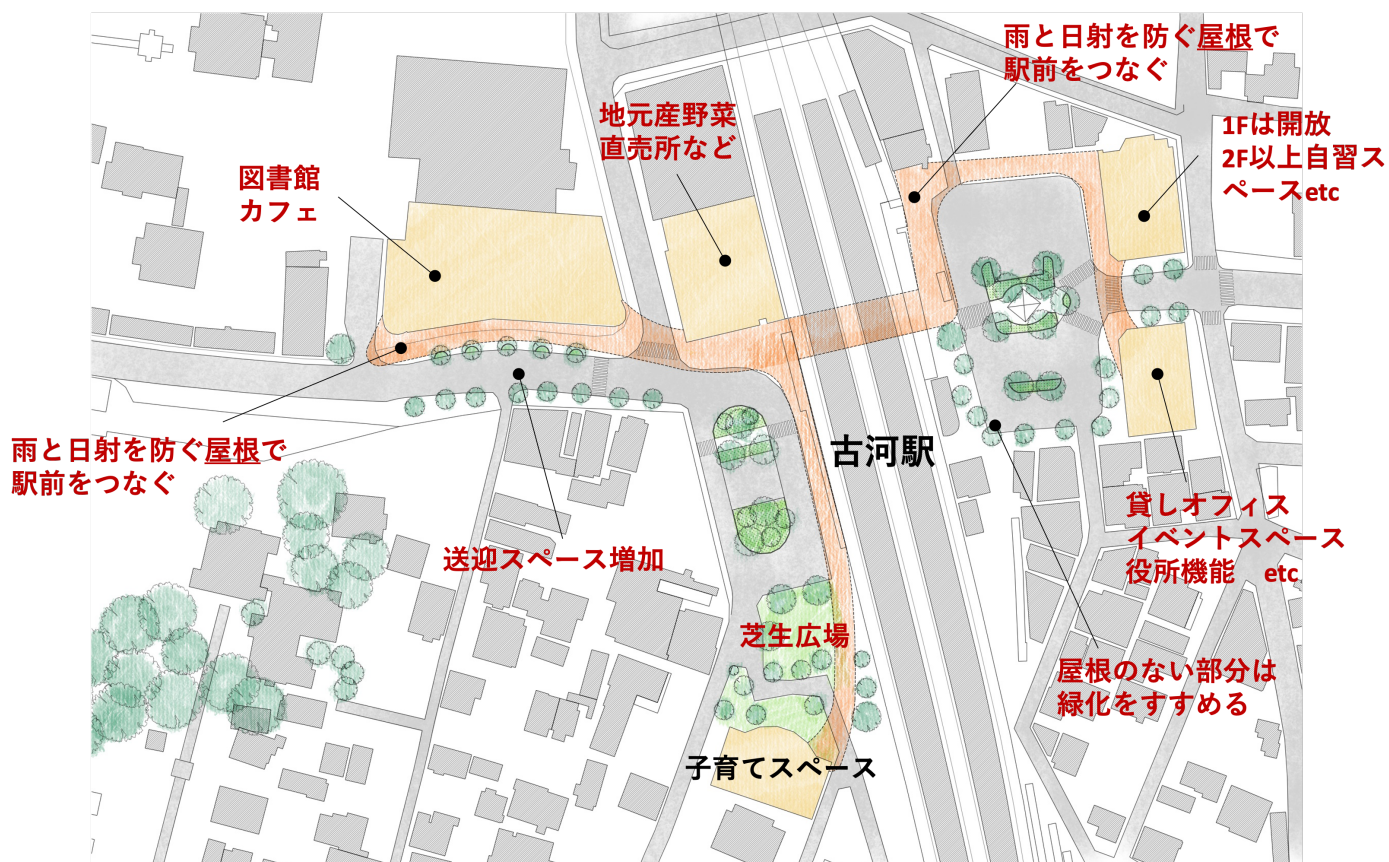
- 風雨をしのげる屋根付き歩道・椅子の整備などによる安全性・快適性の向上
- 車両送迎スペースの拡充による交通混雑の緩和
- 空きビル・空き施設の利活用（図書館、カフェ、野菜直売所など）による賑わい創出、滞留空間の増加



図：古河駅前の現状と問題点

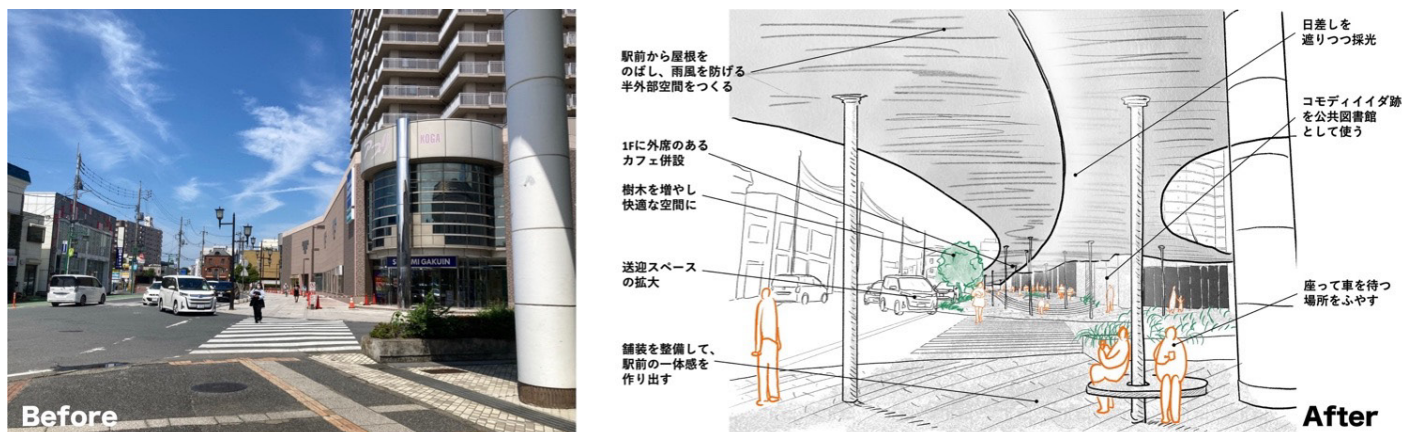


図：古河駅前の再生案。黄色は既存建物の活用、オレンジ色の帯は屋根付き歩道の想定範囲

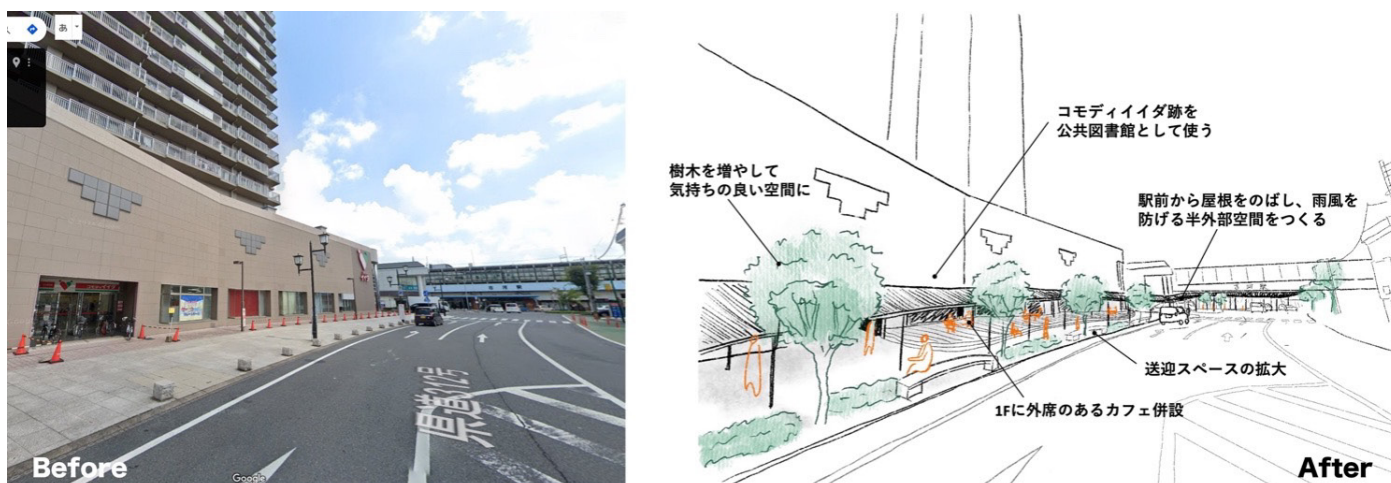




図：空きテナントの多いアプリ古河低層部とその前面歩道の再生案スケッチ（駅方向から見た図）



図：空きテナントの多いアプリ古河低層部とその前面歩道の再生案スケッチ（駅前通り方向から見た図）



## 期待される効果

- 市民 駅利用時の利便性と快適性の向上
- 事業者 来訪者増加による経済効果、新規出店等の賑わい創出
- 来訪者 古河のイメージ向上、観光動線への自然なつながり

## 市への依頼事項

- 駅前の活性化へ向け、市・商工会議所・商工会議所青年部・地元事業者・住民代表等が参画する公民連携の「駅前まちづくり協議会（仮称）」の設立をお願いする。
- 駅前再生に向けた最初の一步として、「仮設的な公共空間整備」（仮設の屋根や椅子を一定期間設置するなど）の実証実験を上記協議会での議論において検討、実施をお願いする。
- 古河駅付近の空きビル等の行政による活用可能性について検討をお願いする。

古河は都心へのアクセスを含め好立地である。古河駅は古河の玄関口であり、市内外の結節点となる古河駅から中長期的な構想を進めることで、戦略的な環境整備が進むと考える。



## 提言理由及び内容

古河市の、他の地方都市にはない大きな魅力の一つとして、渡良瀬川土手という自然環境がある。駅西地区と渡良瀬川土手は近接しており（駅～土手間徒歩 20 分程度）、その間には歴史地区などの観光資源も豊富であるが、一貫した動線が未整備であり、市民や観光客が日常的に利用する空間には至っていない。本提言では、中長期的なまちづくり計画として古河駅西口から土手に至る動線整備を進め、自然空間と都市空間を融合させる古河ならではの「ウォーカブルなまちづくり」を提案する。

## 実施方法

- 駅から土手までの散策路・自転車道の整備（舗装、サイン計画など）
- 途中空間の活用（ポケットパーク、休憩スペースなど）
- レクリエーションエリアとしての土手へのアクセスの改善
- 文化財や歴史資源との連携による観光ルート形成



図：古河駅西口～渡良瀬川土手までの3本の道「土手まで / 土手から楽しみながら歩ける街」

駅から土手までの距離は約 1.3km（徒歩 20 分）であり、歩くのに丁度いいサイズである。

街の玄関口＝駅前と、大きな自然環境＝土手をつなぐことで、古河駅西口エリアの魅力を高めることができる。



## 中長期構想

【古河駅西口エリアを魅力的な街にするキーワード】

● JR 古河駅

都心からのアクセス

● 動線を整備

歩いてまわれるサイズ感

● 土手とのつながり

自然とのバランス

● 商店街の活性化

商人の街のにぎわい

● 文化施設をさらに活用

歴史とのつながり

古河駅西口エリアには、すでに魅力的な街になるパーツは揃っていると考えられる。

### 例1：古河ゴルフリンクス

古河ゴルフリンクスは現在、指定管理者制度による運営がされているが、自然豊かで景色の良い渡良瀬川土手と駅西地区の住宅街をつなぐ公共空間として大きな可能性がある。ゴルフ場としての運営を保ちながら、空きスペースや老朽化で放置された体育館を利用して市民により開かれた公共施設として整備することで、駅～土手間の人々の移動を大きく変容させる場所となりえる。





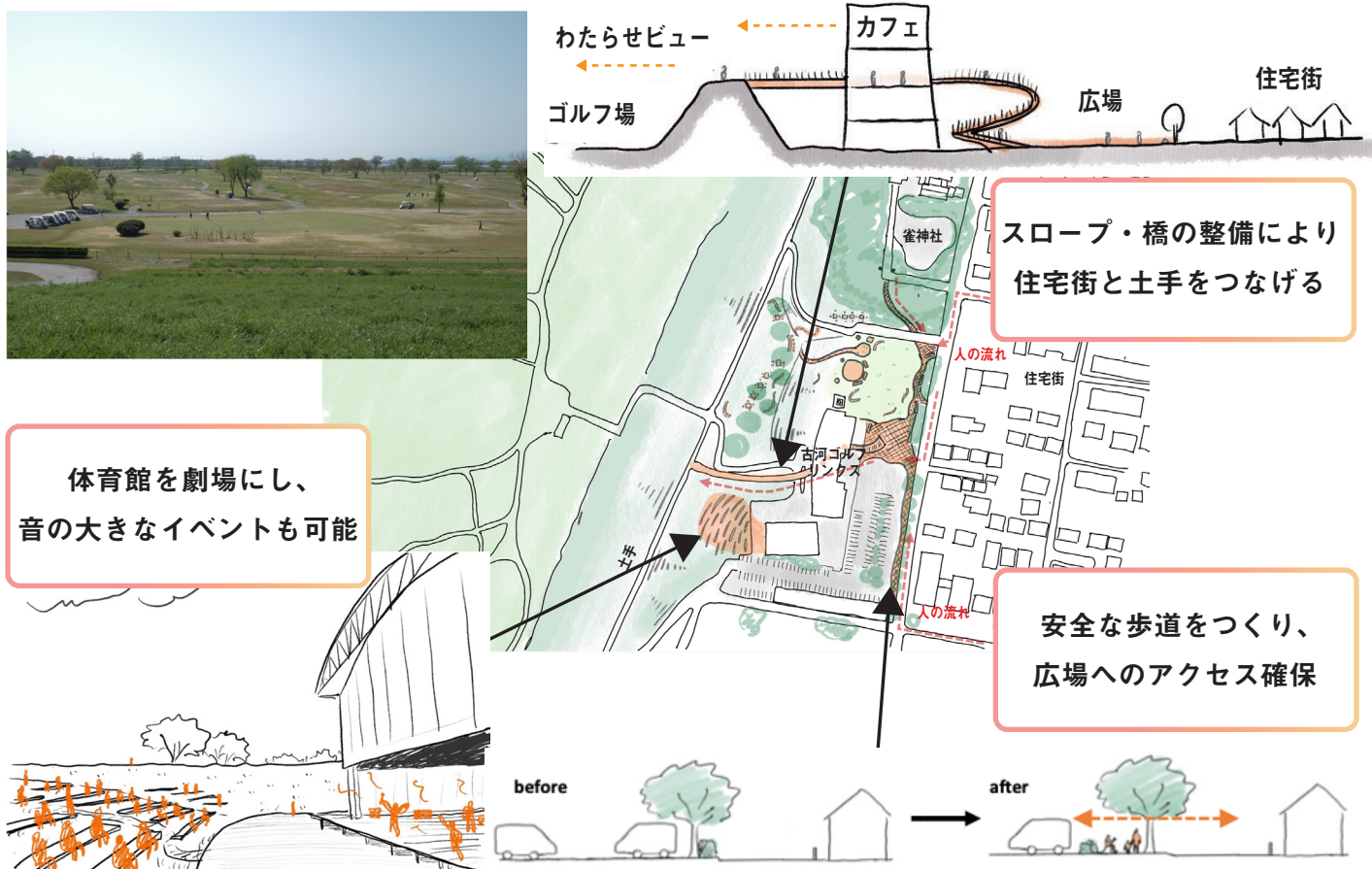
### 提言 3

自然と暮らしがつながるまちへ～古河駅西口から渡良瀬川土手の中長期構想について～

図：ゴルフリンクスの現状と、問題点



図：ゴルフリンクスの整備例





## 例 2：空き店舗活用

古河駅西口エリア地区の空き店舗増加は年々深刻化している。市では令和 7 年度空き店舗調査事業を行うなどして活性化への動きを見せているが、すべての空き店舗を活用することは不可能であり、まちづくりへの影響を考慮して重要な位置にある空き店舗を優先的に活用促進するなどの方向づけが必要であると考え。

写真：公共施設や歴史地区の動線上に位置する空き店舗



空き店舗それぞれの価値を認識し、可能性のある場所から変えていく



図：動線の結節点にある空き店舗を人々の集まるカフェとして活用するイメージ例

## 期待される効果

- **市民** 自然と共生する生活環境の実現
- **事業者** 地域資源を活かした新たな観光拠点の形成
- **来訪者** 中長期的視点での都市ブランド力向上

【中長期ビジョンをもつと、やるべきことが具体的に見えてくる】

- 駅前環境整備
- いまある建物を使う
- 土手まわりの公共空間整備
- 空き店舗の活用
- 文化財をもっと自由に使う

## 市への依頼事項

提言2で要望した「駅前まちづくり協議会（仮称）」の設立を契機として、将来的には「駅西 - 土手間まちづくり協議会（仮称）」へと発展させ、面的な都市再生を進めるため、まずは以下の検討を市に要望する。

- 空き店舗の活用促進に向けた予算措置・支援制度のさらなる拡充
- 河川空間とまちなかの一体的な活用へ向けて、「古河ゴルフリンクス」や「旧渡良瀬処理場（し尿処理施設）跡地」などの土手際の土地に関する公共的利用可能性の検討
- 駅前から歴史地区・商店街を経て土手に至るまでの約1.3kmのエリアを、市民や来訪者が安心して歩き・滞在できる「歩行回遊ネットワーク」として再構築するための方針検討

## まとめ

本提言書は、古河市が直面する人口減少・高齢化・地域経済縮小の課題に対して、民間と行政が共創し、実効性ある取り組みを積み重ねていくための第一歩である。  
教育分野における講師リスト整備、まちづくり分野における駅前改善と土手活用の両輪を通じて、古河市が「選ばれるまち」として持続的に発展することを強く期待する。



# あとがき



古河商工会議所青年部  
副会長

粕谷 卓也

古河 YEG にとって、初めての取り組みとなる政策提言書の作成が、ついに完了致しました。  
少子高齢化、そして地方から都市への移住者が増える中、人口減少の責任を行政だけに押し付けてはいけない、官民がそれぞれの知見を活かして、協力して、魅力のある、選ばれるまちを創っていかねばならない。

そのような思いから、政策提言書の作成はスタートしました。

今回の政策提言書の作成にあたって、何よりも重要視したのは「実現可能性」です。  
政策提言書を作成したとしても、それが絵に描いた餅となってしまうては意味がありません。  
作成をするだけでなく、地域と共に行動をし、提言に書いた内容を実施してこそ、政策提言書は初めて意味があるものとなります。

今回は「教育」と「まちづくり」の二点に絞って提言をさせて頂きましたが、まずは講師リストの作成に取り組みつつ、古河の玄関口である駅前の動線改善から、中長期の古河のまちづくりについて、そのヴィジョンを古河の皆様と模索するとともに、実際に構想したヴィジョンが実現できるよう継続して活動して参ります。

上述したとおり、本年度は「教育」と「まちづくり」の二点に絞って政策提言をさせて頂きましたが、地域が抱える課題はまだたくさんあります。

「防災」・「高齢者の介護や交通の問題」・「増え続ける海外からの移住者との共生問題」等挙げればきりが無いほど、たくさんの課題を抱えています。

そういった課題へ市民の皆様と共に取組み、古河市の華のある未来が共創できるよう、古河 YEG として、政策提言を単年度で終わらせることなく、次年度以降も継続して行っていきます。

結びとなりますが、今回この政策提言書をお渡しする機会を頂きました針谷市長を始めとする古河市役所の皆様、政策提言書の作成にあたり多大なるご助力を頂きました酒田 YEG の皆様、9 月例会のディスカッションにご参加頂きました関係団体の皆様、そして 1 年間市内各所を駆けまわり、知恵を絞り、政策提言書を作成して頂きました岩崎委員長を始めとする政策提言委員会のメンバーの皆様、提言に関わったすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

# 古河商工会議所青年部 令和7年度政策提言委員会

役 職	名 前	事業所名
副会長	粕谷 卓也	粕谷卓也税理士事務所
委員長	岩崎 智之	銭屋米穀株式会社
副委員長	五十嵐 優一	和心 いちえ
副委員長	大島 直	行政書士大島事務所
運営幹事	立岡 一樹	立岡自動車株式会社
	池田 祐介	和が家・スリーアール
	加藤 拓	加藤建築
	久留内 美幸	Flower PRODUCE 楓
	諏訪 佳英	諏訪行政書士事務所
	田熊 隆樹	マンライスタジオ一級建築士事務所
	中村 勇太	株式会社岩井自動車学校
	藤岡 翔太	油鉄印刷株式会社
	山田 直弘	NPO 法人古河史楽会
	吉沢 一修	株式会社吉澤運送

令和 8 年 2 月発行

編集担当 生井 理恵 イーナクエスト株式会社

事務局担当 池田 尚哉 古河商工会議所

令和 8 年 2 月

古河商工会議所青年部